

ひだまり

2019 Vol. 10

秋田大学教育文化学部 後援会情報誌

平成31年3月1日 第10号

愛称「ひだまり」は、教育文化学部が「秋田の文化の温かさ」の集まる日溜まりのような場所となり、皆様にその暖かさが届きますようにという願いを込めて名付けられました。

もくじ

教員養成の充実に向けて	1
後援会活動報告（後援会長）、就職・進学が決まった学生からメッセージ	2・3
教育文化学部就職活動支援（キャリア委員長）、就職内定状況	4
就職情報室を利用して	5
学生の大学生活と大学の学生支援について（教務学生委員長）／ 学部長あいさつ／大学学部関係行事予定	6

教員養成の充実に向けて

学校教育課程は、教員養成機能をいっそう充実させる試みを行っています。まず、学生の教員志望意欲を高め、教員としての資質向上を図るために、履修指導を充実させ授業方法を工夫改善します。初年次ゼミなどでは、早くから教員の魅力に触れるために、若手教員との交流の機会を設けます。2年次から行う教育実習では、学生の過剰な負担とならないことに留意しながら、教員になる意欲をかきたてるよう内容を検討していきます。授業全般としては、教員にふさわしい主体的な学習態度育成のため、双方向型、問題解決型を取り入れ、学生が自分の意見を述べる機会を積極的に設定します。

また、教員免許は、2019年度入学生から主免の選択肢が広がります。英語教育および理数教育コースでは主免が、これまで中学校1種に限られていましたが、今後小学校1種を選択できるようになります。これまで以上に、英語や理数が得意な小学校教員の育成が期待できます。

学校教育課程の特徴のひとつは、複数の教員免許取得が卒業の要件になっていることです。複数免許の取得は、学生を多面的に成長させ、今後重要性を増す小中連携、一貫教育推進に対応するうえで効果的です。学校教育課程における、教育実践、英語教育、

理数教育、特別支援教育、およびこども発達の5コースでは、コースの特徴に応じ小学校と中学校、特別支援学校と小・中学校、幼稚園と小学校の教員免許を取得します。主免の選択肢増加により主免と副免の組み合わせが豊富になり、学生の適性や要望に応じた教員養成が促進されます。

秋田大学の教員養成は、1873年創立の秋田伝習学校を源とする長い伝統のもと、現在の学校教育課程に受け継がれています。今後も社会の変化に対応した教育のあり方を見すえながら、専門教育、教養基礎教育、および課外活動における主体的な学びを通して、高い専門的知識・技能と豊かな教養を備えた教員を育成していきたいと考えています。今後ともご支援のほどお願いいたします。

学校教育課程主任 三戸 範之



「たくましい人材・応用力がある人材」を目指して

教育文化学部後援会 会長 戸巻 孝一

秋田市内は柔らかな日差しが降り注ぐようになり、すぐそこに待つ春を感じるようになりました。後援会会員、教職員の皆さまにおかれましては日ごろから教育文化学部後援会活動にご理解、ご支援を賜わり誠にありがとうございます。

卒業を控えている4年生の皆さんは大きな期待、夢、希望と少しの寂しさを抱きながら残り少ない学生生活を過ごしていることと思います。

昨年は第100回全国高校野球選手権大会記念大会で、金足農業の秋田県勢103年ぶりの準優勝で大変盛り上がりしました。金足農業の大躍進の裏には監督と選手、選手同士がコミュニケーションを取りながらお互いを信頼しあう関係を構築できたことが大きな要因に思われます。

これからの若い方々はIoTやAIとともに政府が科学技術政策を提唱する未来社会を生きていきます。そしてグローバルな先行き不透明な時代を生き抜いていかなければなりません。そのために社会や企業



平成30年度の理事会・総代会の様子

から「たくましい人材」「応用力がある人材」が求められます。企業や社会にとって「人・物・金」が不可欠といわれていますが、IoTやAI、インターネット社会がいま以上に進歩しても一番大事なのは「人・人・人」ではないでしょうか？そのためにはコミュニケーション能力が欠かせません。卒業を控えている皆さんは歴史ある秋田大学で地域社会との接点を大切にされた教育の実践や、地場産業や経済とリンクし地元の人たちとPBL（問題解決型学習）でコミュニケーションをとる機会を多く経験したことと思います。卒業後は各分野の最先端を目指し「たくましい人材」「応用力がある人材」になり、金足農業高校野球部に負けない活躍を期待いたします。

就職・進学が決まった学生からメッセージ

平成30年12月1日（土）に開催した中央地区会にて、4年生就職活動・大学院合格体験発表を行いました。参加された方からの反響も良く、今回改めて本誌に掲載します。保護者の方のみならず、学生にとっても参考になる内容です。

教員採用試験を振り返って

教育文化学部 学校教育課程
理数教育コース 小林 拓



私はこの度秋田県の教員採用試験を受験し、合格いたしました。そのため4月から小学校教員として働くことが決まりました。高校生の頃から教師という職に興味をもち始め、大学2年生の時に秋田県の小学校教員を目指そうと決めました。

教員採用試験に向けて本格的に勉強し始めたのは3年生の11月頃です。秋田大学生協様の教員採用試験対策講座を受講しており、その開講時期と同時に勉強を始めました。それまではサークル活動に熱中していたため、教員採用試験に必要な知識はほとんどないところからのスタートでした。そのため受験期はかなり苦労しました。当たり前のことですが、これから試験に臨む方はなるべく早くから勉強に取り組むのがよいと思います。

試験対策をする上で最も重要だと思うのは、毎日の自分にノルマを課すことで効率よく勉強する習慣を身に付けることです。毎朝9時には勉強を開始し、午後11時まで学校に残ることを目標にしました。ただそれだけの目標では机に座ってスマホをいじる時間が多くなりメリハリがつかなかったため、その日の勉強内容についても目標を立てました。これにより、長いときは毎日10時間以上集中することができました。時には勉強が嫌になり居酒屋にお世話にな

ることもありましたが、そんな時はまじめに勉強に励む友人たちを見て気持ちを切り替え、途中で諦めることなく最後まで努力し続けることができました。

教員採用試験を乗り越える上で支えになったのは、友人たちの存在だけではありません。自主ゼミでは先生方から何度も面接や模擬授業の対策をしていただき、自信をもって面接試験に臨むことができました。毎日利用していた就職情報室では、職員の方々から励ましの言葉をいただきました。たくさんの方々のご指導やご協力があったの合格だと思っています。これから試験に臨む方にも、周りへの感謝の気持ちを忘れずに夢に向かって努力していただきたいと思います。頑張ってください。

公務員試験を通して

教育文化学部 地域文化学科
地域社会コース 三浦 歩



私はこのたび、秋田県職員に内定しました。父が公務員であったことから、就職活動をするにあたり漠然と公務員になろうと考え、公務員試験を受験を決めました。具体的に秋田県職員を目指したのは秋田県の人口が100万人を下回ったというニュースを目にした大学3年次の春でした。この状況に危機感を感じ、秋田県の抱える問題の解決に携わりたいと考えようになった

ことがきっかけです。

公務員試験を受験するにあたり、実際にどのような対策を取るべきかわからなかったのが、大学生協の公務員講座の受講を決めました。毎日の講義にしっかりと出席をし、3年次の10月からは本格的に試験勉強を開始しました。幸い必要な単位を全て取っていたので、試験勉強に集中でき、毎日9時に大学に来て図書館や学科の自習室で勉強に取り組みました。一次試験を突破するにはとにかく量をこなす事が重要だと思います。同じ問題集を信じて解き続けることで試験本番では驚くほど簡単に解けるはずでした。二次試験については生協の講座だけではなく、就職情報室や大学の先生方に協力していただきました。特に面接については多くの人に見てもらうことで多角的に自分を見つめ直すことができます。中には面接が苦手な人がいるとは思いますが、面接は「慣れ」なので何度も練習をし、自分の考えに自信をもつことで克服できると思います。

公務員試験を振り返るとあれだけ頑張れたのは同じ境遇の仲間と出会い、支えあったからだと感じています。つらい時は励ましあい、内定を勝ち取ったときには喜びを分かち合ったのが良い思い出です。また、試験を通して家族や友人、学校に支えられているということも強く実感でき、自分のこれからの人生について深く考えることで自分自身の成長にもつながりました。春からは秋田県職員としての自覚と責任を持ち、秋田県が抱える諸問題の解決のために尽力していきたいと思っています。

就職活動を振り返って

学校教育課程 地域文化学科
人間文化コース 加藤 悠理



内定先はNTT東日本一東北です。業種は情報通信業です。地域密着の仕事で、生まれ育った地元秋田に貢献出来ると感じ志望しました。

就職活動は2年生から始めました。私は幼いころから憧れていた職業に就きたいという漠然とした思いがありました。しかし本格的に始めた3年生後半で学内説明会や社会人と話せるイベント等の経験をして、自分の知る世界の狭さに気づきました。また社会人と話した事で、どうして今の会社・仕事を選んだのか聞く事ができ、「ただ仕事を探す」から「自分の将来」のための活きた就活が出来るようになりました。

3年生3月に本格的な就活が解禁されてからは説明会への参加や選考対策を行いました。3月末にはエントリー締切もあり一番忙しかったのですが、合同説明会で訪れた秋田、仙台、東京はそれぞれ規模も周りの熱気も違うので参加して良かったです。6月からは面接を秋田、仙台、東京で行い、途中辞退も含め10社強受け、3社から内定をいただきました。

私が一番力を入れたのは面接で、言いたい事をロジカルに伝える事に苦勞しました。自分を理解してもらうという事が、当たり前のように一番難しかったです。おそらく自分だけの特別な体験をしている学生はそう多くないと思います。いかに自分の言葉として伝えられるかで合否は大きく変わると感じました。

就職活動の全体の感想は、満足のいく出来だと思っています。自分と向き合って、やりたい事、自分の目指す将来を踏まえて志望した会社に入る事が出来ました。また、この就活が、自分の世界を広げ今後の社会人生活を有意義に出来るような内容に出来たと思います。このような結果を残せたのは、就職情報室で親身に相談に乗ってくれた信太さん、村上さん、添削や面接をしてくれた先生と職員の方、そして試験の時に頑張れと送り出してくれた家族や、励まし合った友人たちのおかげです。ありがとうございました。

来春には、人生の新たな一步を踏み出すのだと思うと、期待半分、不安半分ではありますが、この大学で経験した事を忘れず、日々成長する事を忘れない人になりたいと考えています。

大学院進学 배경

教育文化学部 学校教育課程
教育実践コース 遠藤 史都



こんにちは。教育文化学部・学校教育課程・教育実践コース4年次の遠藤史都です。今年度の教員採用試験では、宮城県と神奈川県の小学校卒で合格をいただきました。また、秋田大学大学院の授業・カリキュラム開発コースで合格をいただきました。今後の進路としては秋田大学大学院で2年間学んだあと、宮城県の小学校教員になります。大学卒業後の進路の一つとして、大学院進学を選んだ背景について述べます。皆様の進路選択の参考になれば幸いです。

大学院進学を決めた最も大きな要因は、大学で特別支援教育について学んだことです。大学の授業の中で、先生から「障害とは何か。どこからが障害で、どこまでが障害ではないのか。例えば眼鏡をかけている人は視力が低いですが、これは障害となるか。」と聞かれたことがあります。

もちろん、視力が低く眼鏡をかけて生活している人は障害者にはなりません。それは、眼鏡があれば通常の生活を送ることができるからです。しかし、もし眼鏡がなければ多くの人にとって障害者となるでしょう。眼鏡が障害を乗り越えるための橋渡しの役割を果たしているのです。

つまり、障害であるかどうかは、人がもつ能力の高さや低さでは決まりません。人とモノの間に障害を乗り越えるための支援や配慮があるか、ないかで決まります。それがなければ、たちまち多くの人が障害を感じるようになります。

これは、通常学級の授業でも同じです。文科省の調査では、通常学級にも2~3人ほどの割合で、特別な支援を必要とする児童が在籍することが分かっています。その児童たちが授業に集中できなかつたり、理解できなかつたりするのは、授業に障害があり、教師の支援や配慮が足りないからです。このことを知った時から、私は「すべての児童にとって分かりやすい授業」という意味を持つ、「授業のユニバーサルデザイン化」を目指すようになりました。

しかし、これを実現するためには、私の力量や経験が不足しています。そこで、大学院では理論と実践の往還を通し、「授業のユニバーサルデザイン化」を念頭に置いた学びを得たいと考えています。

教育文化学部の就職支援と学生の就職状況について

キャリア委員会委員長 宇野 力

本学部では教員から構成されたキャリア委員会を中心として学生の就職支援を行っています。キャリア委員会には教職・公務員・企業の3部門をおき、各部門を担当する教員が学生の就職を支援しています。

学校教育課程の学生の多くは教員を目指しています。同課程の授業カリキュラムは、低学年からの教育実習など実践に即した内容になっており、正課の授業をしっかりとこなせば、教壇に立つ力が養われます。ただ、実際に教員となるには教員採用試験に合格しなくてはなりません。採用試験の試験科目には面接や模擬授業があり、受験者の教員としての適性が問われます。

この人物重視の教員採用試験に対応すべくキャリア委員会の教職部門では採用試験対策の講座として「スタージュ」と「教職自主ゼミ」を月曜と金曜に行っています。「スタージュ」では小論文指導や3、4年次における宿泊つきのキャンプなどによって面接・模擬授業対策を行っています。本学部の教職キャリア支援室には秋田県の教育界で要職を務めた実務家教員がおり、「教職自主ゼミ」では教育現場の諸問題への対応について実務家教員が指導をしています。

平成30年度は本学部4年生のうち36名が教諭として合格しました。この結果は前年度合格者29名よりも増えています。平成30年度教員採用試験では、秋田県も含め多くの自治体で小学校教員の採用数を大幅に増やしており、秋田県は小学校で110名の教員を募集しました。この状況は来年度以降もしばらく続くことが見込まれ、こと競争率という点では、小学校教員を目指す学生にはうれしい状況が続きます。

次に民間企業への就職についてですが、キャリア委員会の企業部門では、全学の事務部就職推進担当とで各種の就職セミナーを開催しています。さらに、エントリーシートの書き方や面接対策の指導を行っています。世の中に人手不足の空気が漂うこともあり、民間企業からの求人は多く、企業への就職

を希望する学生の就職内定状況は良好です。企業へのインターンシップに参加して早くから自分の志望する業界を研究してきた学生は早々と内定をもらう一方で、自分がどういう仕事をしたいのかハッキリしない学生の中にはなかなか内定にまで至らない人も見受けられます。そのような人にとって心強いのが「就職情報室」の存在です。教員は授業等でつかまらないことが多々あります。就職情報室には常駐のスタッフ2名がおり、学生からの相談に個別対応を行っています。就職情報室の利用をぜひお子様に勧めてください。

ところで、経団連から2021年3月卒業生（現大学2年生）から採用選考に関する指針を策定しない方針が示され、世間を騒がせました。その後、政府から、現大学2年生についてはこれまでどおり、3月1日以降に広報活動開始、6月1日以降に採用選考活動を開始するという考え方が示され、本学も求人をご提供する企業に対してこのスケジュールに則った採用選考活動をお願いしていく予定です。

3つ目に公務員部門についてです。公務員試験の1次試験は筆記試験が中心となりますので、この筆記試験対策としては、学生個々の地道な勉強がどうしても必要となります。1次試験に合格した学生には、2次試験では面接があります。キャリア委員会公務員部門の教員が中心となって、2次の面接試験対策を個別に行っています。平成30年度は本学部4年生のうち公務員合格者は44名、法人内定者は3名となっており、公務員では、秋田県庁6名、秋田市役所10名、秋田労働局4名がそれぞれ内定しています。

最後に、就職情報室は皆様からいただきました後援会費からの補助により運営しています。これまでのご寄付に感謝申し上げますとともに、引き続き教育文化学部後援会へご支援を賜りますようお願いいたします。

（本文中の就職者数データは平成31年2月末時点のものです。）

2月末データ

就職内定状況

学部・課程等名	卒業 予定者数	進学 予定者数	求職者数			就職内定者数			就職内定率			その他	
			合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女		
教育文化学部	学校教育課程	113	5	103	44	59	67	27	40	65.0	61.4	67.8	5
	地域文化学科	100	6	90	30	60	87	27	60	96.7	90.0	100.0	4
	小計	213	11	193	74	119	154	54	100	79.8	73.0	84.0	9
教育学研究科	24	0	24	18	6	20	15	5	83.3	83.3	83.3	0	
合計	237	11	217	92	125	174	69	105	80.2	75.0	84.0	9	

就職情報室を利用して

教育文化学部 学校教育課程

教育実践コース3年次 小笹 直也

本格的に就職情報室を利用し始めたのは、11月ごろに行われた「先輩と語る会」や「オータムキャンプ2018」で教員採用試験に合格した先輩方の話を聞いた後でした。

就職情報室には、壁一面に過去問や問題集、教育に関する雑誌が並べられています。私はここで過去問を使い自治体の問題分析をしたり、実際に問題を解いたりしています。

就職情報室にあるのは問題集だけではありません。様々なイベントの案内や、過去の先輩たちが残してくださった教員採用試験の報告書などの貴重な情報もあります。

就職情報室を利用し始めて感じるのは、自分で情報を掴み取ることの大切さです。

実際に手に取らなければ出会うことがなかった問題や、教員採用試験に関するイベント・情報が多くありました。自ら足を運び、そのような情報を得ることは、自信にもつながってくると思います。

就職情報室を利用してよかったと感じると共に、支援の手厚さを実感しています。

学校教育課程 地域文化学科

地域社会コース3年次 山崎 華葉

大学3年生の6月頃から月に1・2回ほど就職情報室を訪れています。訪れたきっかけは、その頃から様々なところで就職活動に関する話を聞くようになり、「とにかく行動しなければ!」と思ったことにあります。業界についても企業についても、全くと言っていいほど知識が無かった私を、就職情報室の方は温かく迎えてくださいました。私が興味を持っ



(左から) 小笹さん, 山崎さん, 就職情報室・信太さん

ていることや、好きなこと、数年前から続けていること等から「こういう業界もあるよ」「こういう仕事はどう?」と業界や企業について教えてください、就職活動において自分の視野を広げられていると実感しています。情報を提供していただいた他にも、就職情報室を利用して先輩を紹介していただいたり、会社訪問のきっかけを作ってくださいました。早い段階から就職情報室を利用することをお勧めします。

誇りある130年の 同窓意識を引き継いで



旭水会会長 千葉 昭

秋田大学教育文化学部同窓会「旭水会」は、昨年、創立130周年の記念すべき節目の年を迎え、10月に秋田市ビューホテルで記念式典並びに祝賀会を開催しまし

た。

式典に先立ち、同窓会員によるハーブの二重奏、ピアノ伴奏によるフルートの美しい演奏で厳粛な中にも華やいだ雰囲気のもとで式典が挙行されました。

記念式典は、秋田大学山本文雄学長はじめ多数の来賓の方々のご臨席のもと、県内10支部・県外(東京・千葉・静岡)3支部から約160名を超える会員の出席があり、記念表彰・新旭水会旗進呈・記念講演会等を行って盛会裡に終えることができました。

また、祝賀会は、秋田大学混声合唱団「A.Choir」による「学生歌」「学園讃歌」の美しいハーモニーで、出席者も共に口ずさむという和らいだ一体感に包まれたスタートでした。

参加者のひとりから「素晴らしい式典・祝賀会の宴でした。旭水会旗の伝達・演奏・講演…。そして「学生讃歌」は、小生が学生時代盛んに歌った讃歌で最高の感激でした。また、60年ぶりの再会もあり、生涯忘れ得ぬ思い出になった一日でした。」という便りも届きました。

同じキャンパスで、共に学び共に語り合った学生時代の思い出は、人生にとって貴重な財産として心に刻み付けられるものです。

「旭水会」は、卒業生は勿論のこと大学在学中も同窓会準会員として、同窓会誌「旭水」の配布や体育大会・文化活動などへの協賛・助成も行っています。「旭水会」は、新入生から在學生、卒業された同窓の仲間の応援団です。大いに頼りにしてください。

学生の大学生活と大学の 学生支援について

教務学生委員長 和泉 浩

数年前から高校での模擬授業に行くとき、私の授業に出ている学生やゼミ生に高校生へメッセージを書いてもらっています。それを見ると、「大学生活は新鮮なことばかりでとても楽しいです」、「本当に毎日が充実しています」、「秋田大学は、沢山の仲間を作れる場所、沢山の挑戦ができる場所、そしてとても楽しい場所です」、「楽しいことがいっぱいあります!」「秋田のレベルの高い教育について知ることができますし、教員採用試験対策も様々な先生方がバックアップしてくれます」、「自分の教養、知識が増えていくことに大学の面白さを見出しています」など、学生たちの充実した様子や大学生活を楽しんでいる様子を感じることができます。その一方、授業に出て来られなくなったり、経済的に困ったり、人間関係に悩んだり、いろいろな悩みや問題をかかえる学生もいます。

教務学生委員会は、教育文化学部の学生のみなさんが、きちんと授業を受け、単位を取り、卒業できるようにするために、学生の生活面も含めて支援する教員の委員会です。たとえば、4月のガイダンスでの授業の履修の仕方や学生生活の注意点についての説明、各学年で単位の少ない学生などを確認し、学生や担任（各学生には主担任と副担任がいます）、保護者などに連絡、履修や学生生活についての相談などを行っています。教員だけでなく、総合学務課教育文化担当の職員とともに学生をサポートしています。職員に親身になってサポートをしてもらい、大学職員になりたい!という学生も毎年います。

秋田大学には学生のみなさんが困ったときの相談窓口として「よろず相談室」や「学生サポートルーム」、「学生相談ダイヤル（24時間対応）」、「保健管理センター」を設けているほか、「学生支援・就職課」の学生窓口では奨学金や授業料、就職支援に関する各種相談に応じており、年々支援体制を充実させています。教員と職員のサポート、そしてもちろん保護者や地域の方々の支援によって、一人でも多くの学生が、秋田大学の教育文化学部を卒業して良かった!と思ってもらえるようにと願っています。



学部長あいさつ

常に変化し続けること

教育文化学部長 佐藤 修司

今年はロシアのザギトワ選手に送られた秋田犬のマサル、甲子園で準優勝した金足農業高校、ユネスコの無形文化遺産に登録された男鹿のなまはげなど、秋田の明るい話題が多くありました。一番驚かされたのは金農の活躍で、一戦毎に強くなっていったように感じます。大都会の選りすぐられた選手が集まる高校とは違い、地方の公立の農業高校がここまでできたことは、秋田だけでなく、日本全国に共感と応援の輪を広げ、勇気と励ましを与えるものになりました。よく言われるように、強い者が生き残るのではなく、変化できる者が生き残るということなのでしょう。困難や失敗を恐れず、挑戦して、そこから学び、成長すること、これはどんな世界でも必要なことです。

本学部は2014年の改組で新たな体制となり、その一回生がこの3月に巣立ちました。これを機に、地域文化学科のコース編成を見直し、地域社会コース、心理実践コース、国際文化コースの3コースとしました。国家資格となった公認心理師の養成に本格的に取り組み、地域における心理的ケアに貢献することを目指しています。また、グローバル化が進む中、異文化の理解と共生に取り組む国際的視野を持った人材を養成し、地域や企業の国際化の進展に貢献することを目指します。今後とも学部・研究科および後援会へのご理解とご支援を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

大学・学部関係行事予定（平成31年3月～）

3月 21日	秋田大学卒業式
4月 1日	前期開始
4月 2日	春季休業終了
4月 3日	在学生ガイダンス
4月 4日	入学式
4月 5日	新入生ガイダンス
4月 8日	前期・第1クォーター授業開始
6月 1日	創立記念日
6月 10日	第2クォーター授業開始
8月 10日	夏季休業開始(9月29日(日)まで)
9月 30日	前期終了 後期・第3クォーター授業開始
10月 1日	後期開始
12月 2日	第4クォーター授業開始
12月 27日	冬季休業開始(1月5日(日)まで)
2月 15日	春季休業開始(4月2日(木)まで)
3月 24日	卒業式
3月 31日	後期終了

秋田大学教育文化学部 後援会情報誌



平成31年3月1日発行
秋田大学教育文化学部
地域連携委員会
〒010-8502 秋田市手形学園町1番1号
平成22年3月1日創刊

<http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman>